

授業科目名	【Gカリキュラム】 プレゼミⅡ 【EFカリキュラム】 プレゼミⅡ	必修	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	判例を読む	担当者	柳澤 眞実子			
授業概要	<p>【概要】</p> <p>法学部の学生として、判例が読めるというのは当然のことです。学年が上がるにつれ、判例に触れる機会もあるかと思いますが、まず判例とは何かを知る必要があります。</p> <p>そこでこの演習では、判例の探し方から始まり、読み方、そして、その判例研究の仕方について学ぶ事を目的としています。</p> <p>【到達目標】</p> <p>判例の大筋である「事実の概要」と「判旨」をまとめ、他の人にわかりやすく発表できるようにすることを目標としています。</p>					
履修条件	一ゼミ員として、教員及び他のゼミ員と豊かなコミュニケーションを取れる者。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>指定しません。</p> <p>【参考書】</p> <p>青木人志『判例の読み方』（有斐閣、2017年）864円</p> <p>品川皓亮・土井真一『日本一やさしい条文・判例の教科書』（日本実業出版社、2015年）1,728円</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>基本は発表です。</p> <p>最初の何回かは、判例とは何かを講義しますが、その後からは自分で図書館に行って、判例を収集し、読み、他人が理解できるようにまとめたものをゼミで発表します。</p> <p>この時、独りよがりな発表ではなく、他人が理解できるまで説明してもらいます。ですから、まずは自分がその判例をよく理解しなければなりませんし、やったけどわからなかった、では済まされないことは言うまでもありません。</p> <p>当然毎回の出席及び発表は必須ですから、事前連絡なく無断欠席を3回以上した者に対して、いかなる理由があっても単位は出しません。</p>					
予習復習内容	毎回指示しますが、研究対象の判例が決定した後は、その判例の熟読を求めます。					
評価方法	15回の演習の中で3回以上、報告してもらいます。この報告内容、レジュメの完成度の如何によって評価します。					
評価基準	3回の報告を通して、本人の理解はもちろんの事として、ゼミ員全員が理解、納得できるようなものであり、かつレジュメの完成度が高かった場合にS評価、本人の理解はできており、ゼミ員のおおよそが理解でき、かつレジュメの完成度が高かった場合にA評価、そのうち特に優れたものをS評価、本人はおおよそその判例の流れが理解しており、レジュメも整っている場合にはB評価、判例研究の方法が理解できたと判断できる場合にはC評価、報告が2回以下であったり、事前連絡なく報告を欠席した場合には内容に応じてD、あるいはE評価、判例研究、報告ともに評価不能の場合はF評価とします。					
その他	※G 判：法【必修】 判【必修】 情【必修】／EF 判：法【必修】 判【必修】 経【必修】					